

ジャガイモとトマトが合体

品川区立西品川保育園（東京都品川区）

[5歳児]

<ねらい・目的・思い>

- ・ジャガイモの収穫を通してジャガイモがどのように生っているのか知り、友達と一緒に収穫を楽しむ
- ・自分が経験した不思議や発見を言葉で表現し、友達と喜びを共有する

事例 ジャガイモ栽培

「ジャガイモが種?」「どうして灰を付けるの?」などと疑問や不思議を感じたり考えたりしながら、ジャガイモ栽培が始まった。水やりや草むしりは定番を決め、みんなでかかわれるように努めてきた。

花が咲き始めたのを見て

E児「先生は、花が咲いてくると、実が生るって言ってたけど実が生らないよね～」

F児「本当だ!実が生ってない!」

ジャガイモが土の中に生ると言っていた子どもたちはサヤインゲンを育てた経験から、花のところにジャガイモ(実)が生ると思っていたらしい…。

ジャガイモの葉が枯れてきたら収穫ができると話していたので、葉っぱが黄色くなってくることを楽しみにしていた。この頃になると、土の中のジャガイモが、土の上に出ているのを発見した子どもたちが大騒ぎをしていた。ジャガイモは木に生ると言っていたA児はその様子をじっと見ていた。

いよいよ収穫の日。子どもたちは自分が植えた場所を覚えていて、自分の植えた位置について歓声をあげながら、掘り始めた。

A児は、自分の掘ったジャガイモを見せ「ほら、こんなに掘れたよ」とにっこりしていた。保育者が「ジャガイモ、どうなった?」と聞くと「ジャガイモさん、土の中だった!」と何か、吹っ切れたようなすがすがしい顔つきで話していた。



事例 不思議なことが起こった!

ジャガイモを掘っていたF児が「先生大変ジャガイモにトマトが生っている!」

子どもたちは、F児の声の周りに集まった。

保育者も子どもたちも信じられない気持ちで、F児が掘ったジャガイモトマトをしばらく観察していた。

F児「不思議!下がジャガイモで、上がトマトだ」

H児「トマトの種が飛んできたんだ」

A児「トマトの種が土の中に残って

いて、合体して出来たんだよ」

F児「そうだ、合体したんだ」

などと、思わぬ発見に子どもたちは興奮して、自分の考えている事を精一杯言葉で表現したり、友達の意見に同調したりしている様子が見られた。



やっぱりトマトだ!!

トマトだと思ってもまだ信じられない様子の子どもたち! トマトを発見したF君が「先生確かめてみたい」と言うので、トマトを切って確かめることにした。

子「やっぱりトマトだ!

種がある」

子「本当だトマトの

匂いがする!」



<考察> ジャガイモは木にできると主張していたA児。収穫の日、ジャガイモがどうなっているかハラハラドキドキしている様子が伝わってきた。A児はジャガイモが生長する過程を見て、何となく木にならないと感じていたらしく、がっかりすることなく収穫を喜んでいた。

またこの日、偶然ジャガイモトマトを発見したことにより、小さな身体で精一杯いろいろなことを考え、友達と意見を言い合ったり、友達の意見に同調したりしている姿が印象的だった。「トマト」だと思ってもまだ信じられない様子で確かめてみたいといった子どもたちの要望に答え、切ってみると種があることに驚き、匂いを確かめて喜んでた。ジャガイモの生長を通してたくさんの不思議を発見することができた。

みどころ

ジャガイモを植える時に、「イモが種?」「どうして灰を付ける?」などと不思議や疑問を考えながら、意欲的に栽培を始めています。だからこそ、嬉しい収穫の時も、イモや株の様子をよく見て感じたことを言葉にする姿に結び付きました。一緒に育ててきたみんなで発見や疑問を共有し、大きな発見をした子どもたちの姿から、「科学する心」が育まれていることが伝わってきます。